第4回　兵庫県海岸保全基本計画変更
技術検討部会

Hyogo Prefecture

資料２

第３回技術検討部会における課題と対応

令和7年8月21日

兵庫県

1．第3回技術検討部会における課題

■第3回技術検討部会における主な指摘・意見の一覧

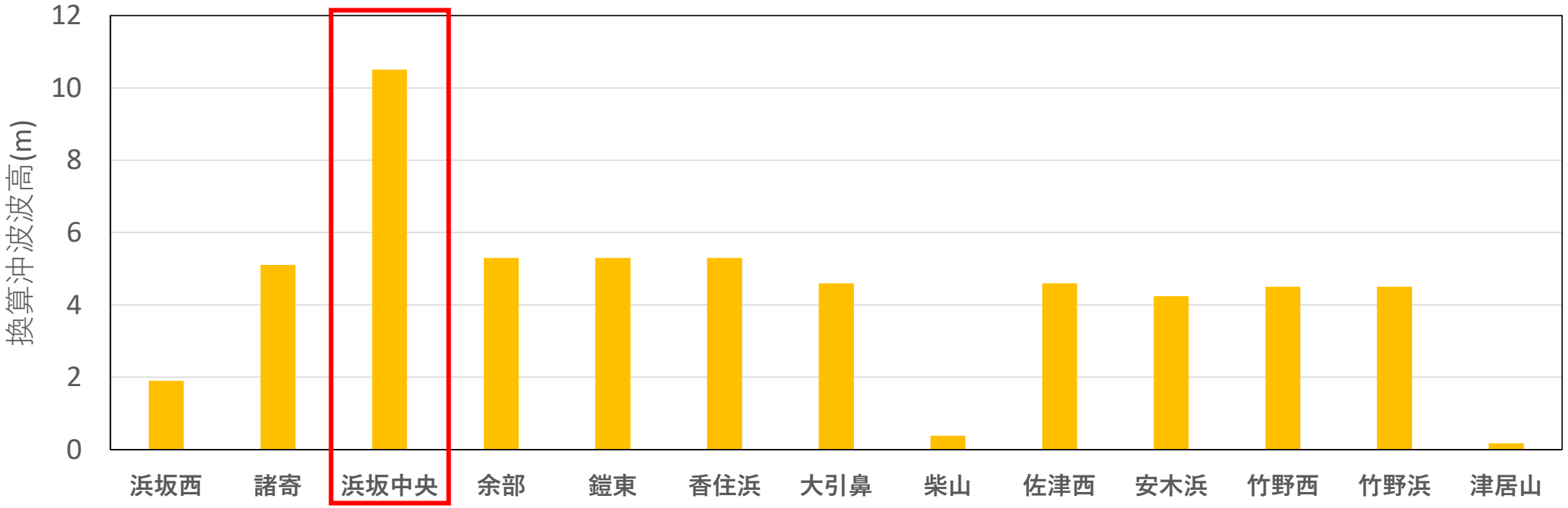
指摘・意見			内容・対応状況
淡路沿岸	3.1	海面上昇量算定の表記方法	データが無い 部分にも近似直線を示している点について、表現として正しくないとのご指摘に対し、グラフを修正。また、グラフの地点名の誤記を修正。
	3.2	洲本のみ地殻変動が沈下傾向になる理由について	淡路沿岸の他の地点においても、短期的（2015年以降）には「南淡」を除いた地点で沈下傾向にあるが、「洲本」の地殻変動量は、近年の沈下傾向に加え、2015年以前にも上昇トレンドがみられないことから、長期的なトレンドとして沈降傾向になったと考えられる。
	3.3	朔望平均満潮位の設定について（一律 or 海岸毎）	第4回部会資料内で検討
大阪湾沿岸	4.3	計画天端高を示した図の凡例の修正	「高潮の必要天端高」の「高潮の」を削除、「天端高不足」に「余裕高を含む」を追記
	―	波浪変形計算の補足資料について	浅海域および港内の波浪変形計算資料について、報告書に整理
但馬沿岸	4.2	「浜坂中央」の換算沖波波高が10m以上と他地区と比べて突出して高いのはなぜか	浜坂漁港海岸の東側は、沖からの波がそのまま入ってくる地形条件となっているため波高が大きくなっている。
	4.3	「佐津西」の将来気候の津波水位が他地区よりも高く推移しているのはなぜか	佐津西地区海岸はポケットビーチ地形で津波が収れんするため、他地区に比べ津波高が高くなっていると考えられる（3～5m）。但馬沿岸全体では同様に津波高が高くなっている箇所があるが、佐津西地区海岸以外では比較的津波高は低い傾向（3m以下）である。
	4.3	計画天端高を示した図の凡例の修正	「高潮の必要天端高」の「高潮の」を削除、「天端高不足」に「余裕高を含む」を追記
	―	波浪変形計算の補足資料について	浅海域および港内の波浪変形計算資料について、報告書に整理

4．計画諸元（計画天端高等）の設定（案）
4．2．堤前波の算定（案）
4．2．3．換算沖波波高の算定結果

■波浪変形計算を実施し、必要天端高の算定に必要な換算沖波波高 Ho’ を算定

検討条件		気候条件	浜坂西地区	諸寄地区	浜坂中央地区	余部地区	鎧東地区	香住浜地区	大引鼻地区	柴山地区	佐津西地区	安木浜地区	竹野西地区	竹野浜地区	津居山地区
波浪	換算沖波波高$H_{0'}$(m)	将来2℃	1.9	5.1	10.5	5.3	5.3	5.3	4.6	0.4	4.6	4.2	4.5	4.5	0.2
	沖波周期T0(s)		14.3	14.5	14.5	14.2	14.2	14.2	14.2	14.1	15.4	15.1	15.1	15.1	13.7

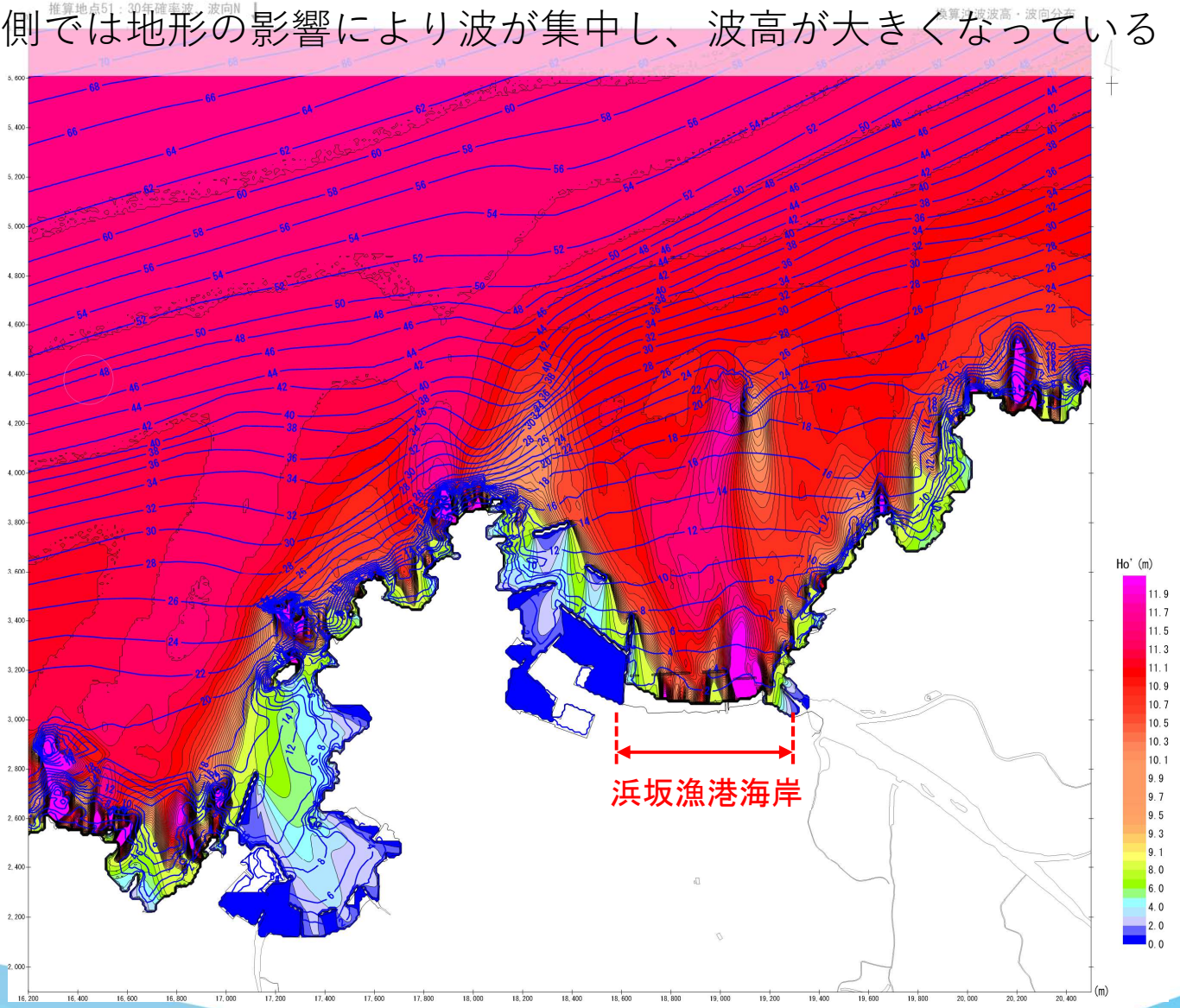
※表中の波浪・潮位条件は各地区における設定値の一例を示したものである
※【但馬沿岸の潮位条件】将来2℃：台風期朔望平均満潮位T.P.+0.70m＋海面上昇量0.40m＋計画偏差0.64m＝1.74m≒T.P.+1.8m



1．第3回技術検討部会における課題

■浜坂中央地区海岸（浜坂漁港海岸）の換算沖波波高について

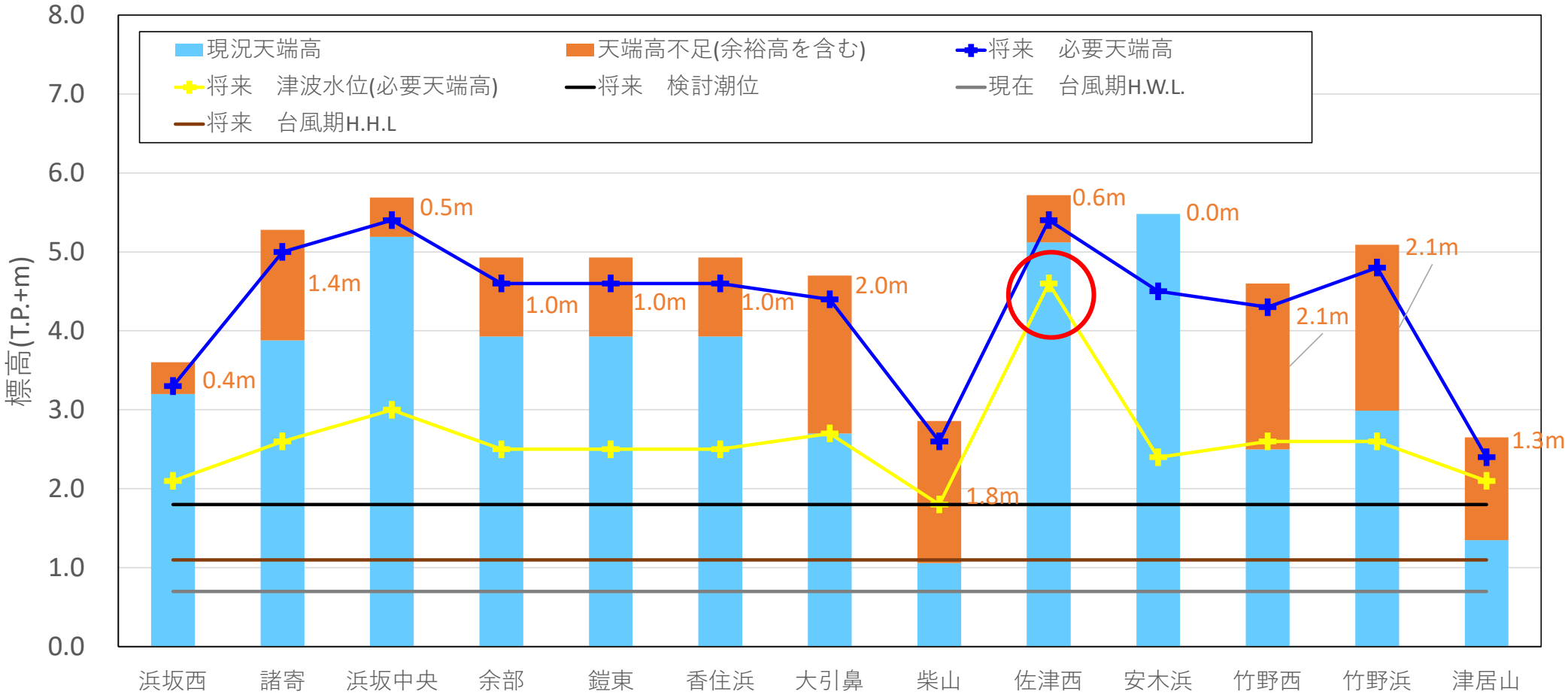
- 浜坂漁港海岸は前面に遮蔽物がなく、沖からの波がそのまま入ってくる
- 海岸東側では地形の影響により波が集中し、波高が大きくなっている



浜坂漁港海岸近傍の換算沖波波高分布（波向N, 2℃上昇）

4．計画諸元（計画天端高等）の設定（案）
4．3．計画天端高の算定（案）
4．3．2．計画天端高の算定結果

■各海岸地区の必要天端高は下図の通り



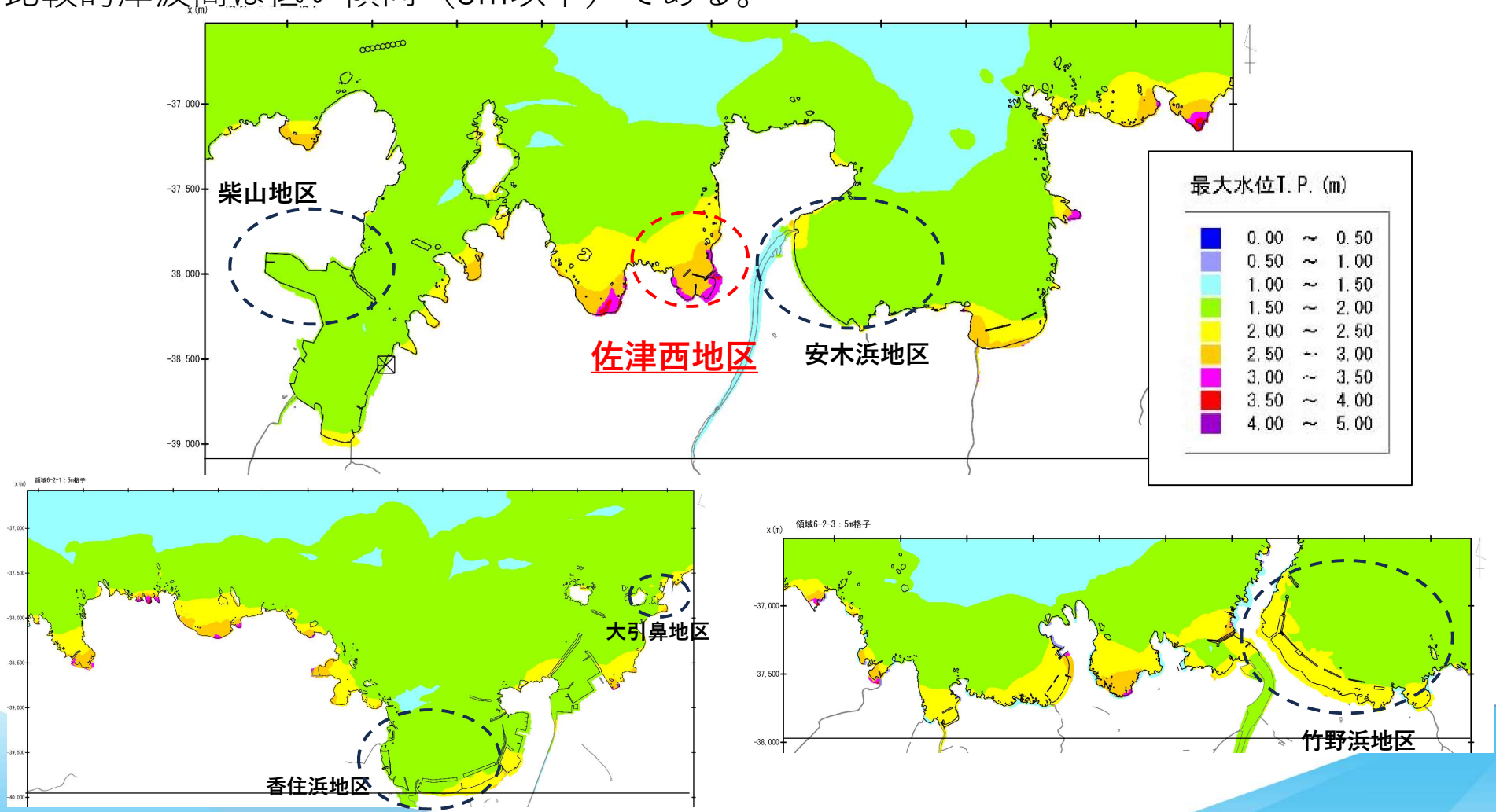
※天端高不足＝計画天端高ー現況天端高
※計画天端高＝「必要天端高＋余裕高」　※必要天端高：高潮による必要天端高と津波による必要天端高を比較して高いほうを設定
※【但馬沿岸の潮位条件】将来2℃：台風期朔望平均満潮位T.P.+0.70m＋海面上昇量0.40m＋計画偏差0.64m＝1.74m≒T.P.+1.8m

1．第3回技術検討部会における課題

■佐津西地区海岸の津波高について

・佐津西地区海岸（図中赤丸点線）はポケットビーチ地形で津波が収れんするため、他地区（図中黒丸点線）に比べ津波高が高くなっていると考えられる（3～5m）。

・但馬沿岸全体では同様に津波高が高くなっている箇所があるが、佐津西地区海岸以外では比較的津波高は低い傾向（3m以下）である。



佐津西地区海岸近傍の最大津波水位分布（2℃上昇）